



IDF PRESS RELEASE

IDFプレスリリース

2019年5月15日、コペンハーゲン発

乳牛の乳房炎：予防は治療より優れている

MASTITIS IN DAIRY CATTLE: PREVENTION IS BETTER THAN CURE

世界の酪農専門家が緊急の動物健康問題を議論するため、コペンハーゲンで会議を開催

乳房の健康に関係する一流の世界的な専門家が25カ国以上から参加し、IDF（国際酪農連盟）によって酪農乳業セクターに影響を及ぼす最も重要な病気の一つとしてランク付けのされた乳房炎の予防的解決策を議論するために、本日コペンハーゲンで会議を行っています。

IDFによる組織化と [SEGES](#) の主催により、この会議では、乳牛における乳房炎の減少を達成し、最終的には動物のケア、福祉および乳生産性の向上を目的として、乳房炎管理における技術革新と調査研究について共有するために本分野の関係者向けの機会を提供します。

IDF 事務総長のキャロライン・エモンド氏は、次のように話しました：

「健康で生産的な乳畜は、世界人口が急速に増加している現在において、安全で十分量かつ栄養価の高い食料を供給するために不可欠です。乳房炎は、乳を捨ててしまうことにより、生産性の低下と食品のロスを引き起こします。酪農セクターがこの病気の最適な管理を達成するべきならば、協調行動が不可欠です。」

IDF の作成による最新の [アニマル・ヘルス・レポート](#) によると、乳房炎は乳生産に

おける抗菌剤の消費の主な理由であり、無効な乳房炎管理は酪農セクターで消費される抗菌剤の最大 85%を占めます。

動物健康分野の科学者は乳房炎管理を大きく進歩させ、最近 10 年間で臨床的乳房炎の発生率が大幅に低下した一方で、抗菌剤耐性 (AMR) は依然として世界的な関心事です。新たな AMR 機序が世界的に出現し、蔓延しており、一般的な感染症の治療能力を脅かしています。抗菌剤の誤用と過剰使用が、このプロセスを加速させています。単一の独立した AMR 介入では効果が限定されるため、国家および世界レベルでこの問題を共通に理解することが不可欠です。

SEGES 会長の Steen Nørgaard Madsen 氏は、次のように話しました：

「乳房炎は、牛の飼養において主な経済的および動物福祉上の関わりがあります。デンマークで開催されたこの *IDF* 会議で最新知識を交換するために世界の専門家たちが集まることは、私たちが乳房の健康増進をさらに改善してゆくための重要なステップです。」

IDF 科学・規格プログラムマネージャー、獣医師、博士のマリア・サンチェス・マイナー氏は、次のようにコメントしました：

「世界の酪農乳業セクターを代表する団体として、*IDF* は人々と組織を呼び集め、共同で酪農科学と専門知識を向上させる上で重要な役割を果たします。*IDF* の科学者は、乳房炎の世界的リーダーとして認められており、本日の会議は、進歩と学んだ教訓を共有する絶好の機会であり、これは乳牛の乳房炎を減少させ、可能な限り最高の科学的な専門技術を通じて高い乳品質と持続可能な乳製品を確保するための基礎です。」

完

翻訳：J I D F 事務局

編者注：仮訳の正確性、完全性、有用性等についてはいかなる保証をするものではありません。参考資料として扱い、内容に疑義が生じた場合は英文の原文をご確認ください。